

平成 28 年度三重四川災害対応連絡会 第 2 回櫛田川委員会

- 1 日 時：平成 28 年 8 月 23 日（火） 10:00～11:10
- 2 会 場：松阪市役所 本庁舎 5 階 特別会議室
- 3 出席者：委員会構成員
松阪市 竹上真人市長
多気町 久保行央市長
明和町 中井幸充町長（代理：堀真まち整備課長）
三重県 県土整備部 施設災害対策課 倉田正明課長
松阪建設事務所 服部喜幸所長
気象庁 津地方气象台 日当智明台長（代理：松木晃一郎防災管理官）
国土交通省 蓮ダム管理所 新高庸介所長
三重河川国道事務所 川村謙一所長
- 4 議 事：1）第 1 回櫛田川委員会の議事概要等
2）櫛田川水系の減災に係わる取組方針（案）
3）今後のスケジュールについて
- 5 議事概要：

- ・櫛田川水系の減災に係る取組方針（案）について確認し、了承を得た。

[出席者の主な発言]

- ・洪水浸水想定区域図を見直すと記載されているが、これまでと何が違うのか改めて説明をしてほしい。
 - 従来は、概ね 100 年に 1 回に起こりうる計画規模の降雨でのシミュレーション結果だったが、今回は想定し得る最大規模の降雨での解析も行う。従前の図面より浸水エリアが広範囲かつ、より深くなる可能性がある。今回の計算から、各機関で管理している排水機場の稼働状況も考慮しており、氾濫によってポンプが停止することでも設定している。併せて、立ち退き避難を考える上で重要となる浸水継続時間も公表する。また、氾濫流や河岸侵食による家屋が流出・倒壊する可能性のあるエリアを算出した家屋倒壊等氾濫想定区域も公表する。これらの洪水浸水想定区域図を元に、市町においては水害ハザードマップの見直しをしていただきたい。
- ・現在の浸水想定区域図も住民にとっては相当なものだった。想定最大規模の降雨であれば、どのくらいか想像がつかない。洪水浸水想定区域図は多点破堤をさせた最大包絡図となっており、実現象では起こらないことを表現している。作成する前提条件を説明してほしい。
 - 櫛田川は現在作業を進めているため、先に公表した鈴鹿川では、従来 150 年に一度の降雨規模の洪水浸水想定区域図であった。6 時間で 268mm、想定最大では 391mm の降雨としている。想定最大規模の降雨は全国を 15 のブロックに分割して算出しており、櫛田川も鈴鹿川と同じように検討を進めているところ。
- ・洪水浸水想定区域図を見直す際は、住民への説明協力をお願いしたい。
- ・今後 5 年間における危機管理型ハード対策等は非常にありがたい。今年も河川整備に対する地域からの要望も上がっている。一歩でも進めていく取り組みを実施してほしい。地元要望に応えるためにもよろしくをお願いしたい。
- ・支川佐奈川は、草木の繁茂が著しいので処理してもらえるとありがたい。
- ・上流の降雨量を非常に気にしており、上流部の降雨状況や予測、蓮ダムの操作状況、両郡橋の水位の上昇を防災対策本部で状況確認している。また、土砂災害も警戒している。
- ・洪水浸水想定区域図を見ると、櫛田川の氾濫で川から離れている地区も祓川を越えて浸水する。住民目線では 3 連動地震による津波浸水想定と洪水浸水想定の違いが分かりにくい。配慮をお願いしたい。

以上
(事務局作成)